

学校の概況(平成30年度)

平成31年5月19日

広島商船高等専門学校

目 次

学校の現況（校長 辻 啓介）	1
学生教育（教務主事 吉田 哲哉）	2
1. 主な取り組み	
2. 課題とその解決に向けて	
学生支援（学生主事 大和田 寛）	3
1. 就学支援	
2. 学生会活動支援	
3. 課外活動支援	
4. 交通安全指導	
学寮生活（寮務主事 小林 豪）	4
1. 寮生数と再入寮制度について	
2. 寮生の現状	
広報活動（広報主事 大山 博史）	5
1. 平成30年度の主な取組	
2. 入学生の状況、情報の共有	
3. 今年度の取組	
進路指導―商船学科―（商船学科就職担当 濱田 朋起，水井 真治）	6
1. 進路概況	
2. 求職・求人の傾向	
3. 進路指導	
進路指導―電子制御工学科―（電子制御工学科 就職担当 吉田 哲哉）	7
1. 進路の概況	
2. 進路状況	
進路指導―流通情報工学科―（流通情報工学科 進路指導担当 岩切 裕哉）	8
1. 進路指導（学科の取り組み）	
2. 進路の概況	

学校の現況

校長 辻 啓介

保護者の皆様には、平素より本校の教育活動にご理解とご協力を頂き、厚く御礼を申し上げます。

平成30年7月の記録的な集中豪雨によって、広島県は未曾有の被害を受けました。本校は、幸いにも、校舎地区一部の小さな土砂崩落を除いて大きな被害はありませんでした。本校に至るまでの交通網である竹原に通じるJR呉線及び幹線道路が各地で寸断されましたが、ライフラインが確保されていたことで休講措置も1週間で済みました。呉線も開通し、被災地では、復興作業が進みつつありますが、時間を要するものです。今後とも、可能な限り協力させていただきます。

また、弓削商船には、弓削丸に対する供水支援を行いました。更に、10月の大島大橋事故に伴い、大島商船に広島丸を派遣して補給作業を行い、瀬戸内3商船高専の絆を高めたところでした。

平成30年度は本校にとって節目の年でした。明治31年に本校の前身である芸陽海員学校が開校して120年を迎え、平成30年10月20日には「広島商船高等専門学校創基120周年記念式典」を執り行いました。そこには、多数の来賓を含め卒業生等を迎える中、在校生の大多数が参加をしてくれました。在校生にとっては、本校の節目となる年に学生として在席していたことが、次の節目となるとときには思い出されることでしょう。

120周年記念式典の翌日、松江で行われた高専ロボコン中国大会において、Aチーム「紫電☆一闪」が他を寄せつけない圧倒的な優勝を飾り、国技館への出場を勝ち取りました。さらに、Bチーム「茶屋妖」も予選を突破して、準決勝では兄弟対決となったことは、実に嬉しい日が続き、本校にとって、最高の日々が続いたこととなります。11月25日の国技館での高専ロボコン全国大会に参加した「紫電☆一闪」は実力を遺憾なく発揮したにも関わらず、残念ながら「勝負は時の運」ということで、準々決勝で敗退しましたが、ロボコン大賞に次ぐ「アイデア賞（文部科学大臣賞）」と、特別賞（本田技研工業）を受賞しました。全国から、卒業生を中心に賛美の声や声援を頂き、また、試合当日に会場で応援した頂いた皆様にお礼を申し上げます。

現在の高専教育は、知識・技術の確実な修得に重点を置いた教育から、社会課題の解決能力の育成に重点を置く教育へ変わろうとしています。知識・経験だけでなく、全く新たな視点から何かを作り出す発想能力が必要となります。このような課題解決能力を育成するために「自ら学ぶ」能力が求められています。その他本校の持つ課題は多くありますが、社会的人口減少の中、我が国の将来を担う学生を育て、日本の未来社会ーグローバル化と地方創生ーに対応できる課題解決能力を有する人材育成に努めています。より高い成果が得られるように学校として努力しております。学生が立派に成長できますようご協力とご支援を重ねてお願い申し上げます。

学生教育

教務主事 吉田 哲哉

1. 主な取り組み

- (1)SHR：平成 29 年度の 4 月から朝の SHR（朝 8：35～8：50）を全学年で始めました。遅刻・欠席の防止，伝達事項を含めて担任とのコミュニケーションの場として，さらには短くてもいいので何かの勉強（できれば英語）の時間になればと思っております。
- (2)教室英語：平成 29 年度の 4 月から，全ての授業で毎時間英語を何フレーズか使おうという取り組みを始めました。教員用と学生用の教室英語（各 60 フレーズ）を作成し，学生と教員の全員に配布しています。場面に応じた表現に，学生も教員も慣れるための取り組みです。
- (3)教室の環境づくり：放課後の教室の掃除・整理整頓等の取り組みです。教務主事補の教員を各階に配置して，担任だけでなく学校全体で取り組んでいるところです。「教職員（の取り組み）が変われば学生が変わる。学生（の取り組み）が変われば学校が変わる」の思いです。
- (4)MCC の導入：MCC とは Model Core Curriculum（モデルコアカリキュラム）の略称です。平成 30 年度より全国の高専において MCC に基づいて授業のシラバスを作成し，教育の質保証に向けた取り組みを開始しました。
- (5)CBT の導入：CBT は Computer Based Testing の略称で，問題用紙やマークシートなどの紙を使わず，コンピュータで受験する方式のテストです。昨年度は一般教科の数学，物理，化学について行われました。今年度以降は，専門教科でも導入が検討されています。

2. 課題とその解決に向けて

- (1)遅刻と欠席：SHR の取り組みを始めたものの，まだまだ遅刻や欠席が多い学生が見受けられます。100 欠席時数以上（年間約 2 週間、公欠は除く）の学生が，1 年生に 8 人，2 年生に 12 人，3 年生に 5 人，さらに 4 年生に 4 人，5 年生に 9 人，合計で 38 人もいます。ただ，授業をほとんど休まない学生もたくさんおりますことを申し添えておきます。
- (2)留年と退学：図 1 に，ここ 12 年間の留年率と退学率の推移を示します。平成 30 年度は前年度に比べ留年率は下がりました。図 2 に，平成 30 年度の学科・学年別の留年者数（休学・退学者数を除く）を示します。合計で 11 人の学生が進級できませんでした。退学者も 20 人で，少し増加傾向にあります。何とかして，こうした状況を打破しなければならないと思っております。
- (3)ご協力をお願い：学校としましては，授業の改善はもちろんのこと，担任・学生指導関係・寮・学生相談室等とさらなる連携をとりながら学生支援を行ってまいりますので，保護者の皆様におかれましても引続きご協力の程よろしく願いいたします。

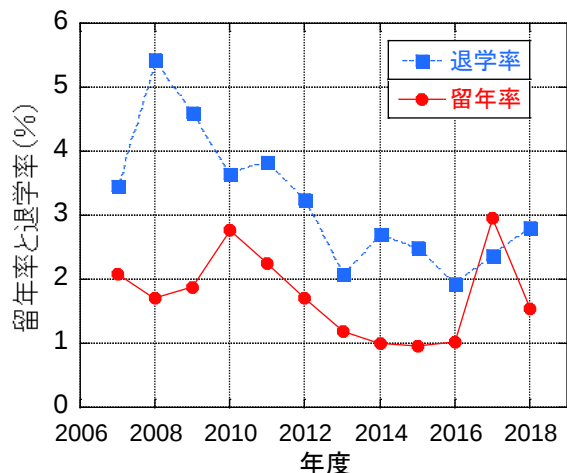


図 1 留年率と退学率の推移

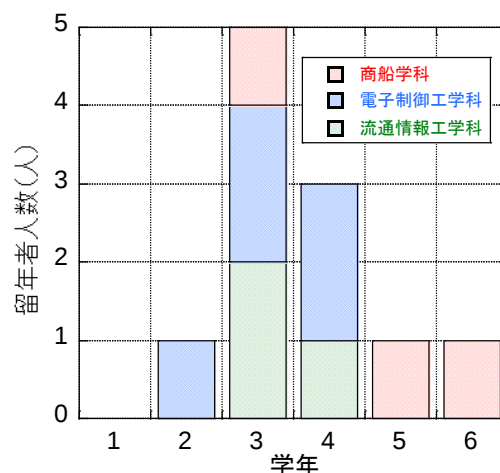


図 2 留年者数（2018 年度）

学生支援

学生主事 大和田 寛

1. 就学支援

本校では、入学金や授業料の免除、各種奨学金の案内や手続き等について、各教室や1階エレベーター横の掲示板に張り出すとともに電子掲示板で学生たちに案内しています。申請等手続きが必要な場合は、掲示されましたら学生係へ行き必要な書類等を受け取り、記入の上、期限内に提出するようにお願いいたします（学生係：0846-67-3023）。

なお、1年生から3年生までの学生に関しては就学支援金制度により授業料の支援を行っています。4年生以上の学生には授業料免除制度があり、平成30年度に69名の就学支援を行っています。平成30年7月豪雨災害での支援として、追加の授業料免除を行なっています。

2. 学生会活動支援

学生たちの自治組織として、学生会があります。会長をはじめとする役員を中心として、商船祭やクラスマッチなどの学校行事に取り組んでいます。

学生会の最大の行事である商船祭には、アマチュアのミュージシャンを招致するなど、学生のみならず来場者にも楽しんでいただけるイベントや展示を企画いたしました。平成30年度は天候に恵まれ、それぞれの役目を果たしていました。また、ご来場いただいた保護者の皆様にもお礼申し上げます。2019年度も、前年度の反省点を踏まえて新学生会で色々の案を考えております。

3. 課外活動支援

学生たちの心身の健全な育成のために17の体育系のクラブ・同好会、12の文化系のクラブ・同好会が放課後を中心に活動しています。卓球部、陸上部などいくつかの体育系クラブが全国高専大会に出場しました。また3年生以下が参加する高体連の大会でも多くのクラブが地区予選を勝ち抜いて、県大会出場を果たしています。プログラミングコンテストでの活躍も継続的に受賞の栄誉を受け、ロボットコンテストでは7年ぶりに全国大会出場（アイデア賞・文部科学大臣賞受賞）を果たしました。

高専大会の天候に基づく開催および参加の可否については、開催校の前日および当日出発前の判断に基づき途中経路の状況を確認して決定いたします。

4. 交通安全指導

朝の登校の際には、通学路に立ち学生たちの安全を守るため、交通安全指導をしています。特に並列運転や二人乗りをしないこと、一旦停止などの交通規則を守り、事故に遭わないように指導しています。自転車による雨天時の傘差し運転をしないよう、特に注意しています。これは視界を狭めるだけでなく、自動車等に引っかかりやすくなり、大変危険ですので、自転車で通学するお子さんには必ずカッパを着て登校するようにご家庭でもご指導をお願いします。

学寮生活

寮務主事 小林 豪

1. 寮生数と再入寮制度について

○寮生数

平成 30 年 4 月に 103 名の新入寮生（男子 88 名、女子 15 名、合計 103 名）を迎え入れ、全寮生数は 462 名となりました。

○再入寮制度

（表 1）平成 30 年 4 月現在の寮生数状況

通学圏内中学生数が減ることで、寮生割合は高くなり、新入寮生は 100 名を超えるようになってきます。

本校の入寮期限は 3 年で、その後は再入寮手続きが毎年必要となります。その際、新入生の入寮希望者を優先させるため、学寮の収容人数の超過が予想される場合、生活態度が乱れている場合、公共交通機関を利用した通学が可能な場合等に、再入寮を許可しないことがあります。これらの対応により、新入寮生の居室数を確保しています。新入寮生数の状況によっては、入寮申請し条件付きで不許可となった寮生には、入寮可能の呼びかけをしています。

年度 学年	平成30年度(4月)				計
	男子		女子		
		留学生		留学生	
1 年	88		15		103
2 年	96		15		111
3 年	95		10		105
4 年	73	1	11		85
5 年	45		12	1	58
計	397	1	63	1	462

2. 寮生の現状

○寮生の現状

一年生も間もなく後輩ができる時期となりました。「自分の事は自分で行い、他人に迷惑をかけるような行動をとらない」といった集団生活において当たり前行動がとれない学生が見受けられていましたが、後期に入り 1 年生も随分成長した様子が見られるように感じられます。1 年生以外も 4 月当時に比べ、様々なところで成長が見受けられます。

前期中は、居室の使い方、公共场所の利用法、生活マナーについて、声を掛け続けて指導してきました。各居室の整理整頓が行き届いているかについては、まだ不十分なところがありますが、居室の使い方や公共场所におけるマナーは、指摘することが少なくなり、これまで目立たなかった細かい改善点が、目立つようになってきました。

○寮生会について

寮には学生による運営組織として「寮生会」があります。寮生会では、日々の寮内掃除の実施・指導、各種イベントの立案・運営等、寮生の生活において指導的な役割を果たしてくれています。掃除当番を確実にこなせる工夫や、自転車の整理等、積極的に指導をしはじめ、積極的に行動しています。

女子寮においては、これまでにあった規則には載らない細かなルールを、「女子寮のしおり」としてまとめてくれました。

来年度の寮生会運営をより良いものにするため、寮生会組織の在り方や役割、ルールを見直し、それらが定められている若潮寮寮生会会則を改正しました。来年度に向けて、寮生会主催で様々なイベントを計画している様子です。

寮生会と連携をとり、寮生の生活が充実したものとなるように支援をしていきたいと考えています。

○寮の食費の改正について

寮の食費（諸経費）が、平成 31 年 4 月より月額 590 円値上げされます。

広報活動

広報主事 大山 博史

1. 平成 30 年度の主な取組

1 年間を通じて次のような主要な活動を行いました。

- ・ 4 月 大崎上島中学校の宿泊研修（本校若潮会館に宿泊）に協力
- ・ 7 月 本校主催の広島合同ガイダンス
- ・ 7 月 5 商船高専合同説明会（横浜，神戸）に参加
- ・ 8 月 公開講座 オープンスクール（第 1 回目）を 2 日間実施
県内の中学校（235 校）を訪問（主事・特命教授）
- ・ 9 月 県内中学校からの要望による出前授業や進路説明
他高専との合同進学説明会を実施（東京・姫路・福岡）
3 高専合同ガイダンス（松江・弓削・広島）
- ・ 10 月 オープンスクール（第 2 回）
- ・ 進学塾（田中学習会・明光義塾・ノーベル学習館など）の進学説明会参加

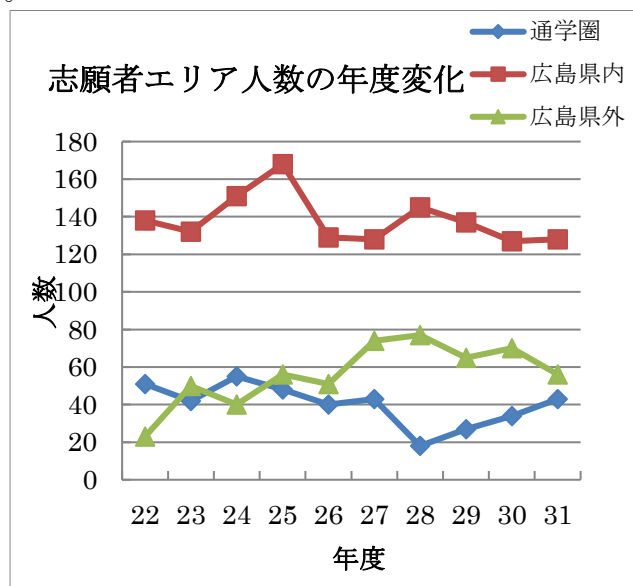
2. 入学生の状況、情報の共有

今年の志願者は 227 名(本校を第一希望もしくは専願者数は 208 名)になり，第一希望者としては 6 年ぶりに 200 名を超えました。昨年度は 7 月の大水害がありましたが，8 月のオープンスクールは 2 日間で実施しました。広島県内の交通網が大ダメージを受ける中でも 2 日間で最高数に近い来校者がありました。平成 31 年度もまた夏のオープンスクールは 2 日間，10 月に 1 日間とする予定です。

今年の傾向としましては，商船学科の志願者がある程度頭打ちになっているようです。ただ，近隣の中学校と広島市の中学校から多くの工業系への志願者が増加したことは明るい兆しでもあります。これら工業系の学科は独自の特徴を生かしレベルアップを目標にしていきます。

しかし，本当の広報とは「本校の学生が社会に役立つ人材として成長する」という実績を築くことが重要であると考えられます。学校全体が学生を支援できる体制が必要です。

また，今年の広報活動では学生主体の広報活動を全面に打ち出して行く予定です。2 度のオープンスクールでは本校の学生を生徒や保護者に見ていただくことにより，志願者増につながるような魅力ある学校にしていくことを考えています。



3. 今年度の取組

- (1) 中学校（中学校教諭）との連携強化
- (2) 教育コーディネータの配置(2 人)
- (3) 本校主催の進学ガイダンスを広島・尾道で開催予定（7 月・9 月）
- (4) 県外での PR 活動強化

進路指導 ―商船学科―

商船学科 就職担当 濱田 朋起, 水井 真治

1. 進路概要

図1に商船学科の過去5年間（平成26年度～平成30年度）の進路状況を示します。全体の傾向として、航海コース・機関コースともに平均すると約6割が海上職、約2割が陸上職、残り2割が進学といった状況です。

平成31年9月に卒業予定学生の進路状況（内定状況）を表1に示します。今年度5年生は、約63%の学生が船員としての海上就職予定となりました。そのうち、外航船員として内定が6名、内航船員として内定が18名（合計24名内定）となっています。

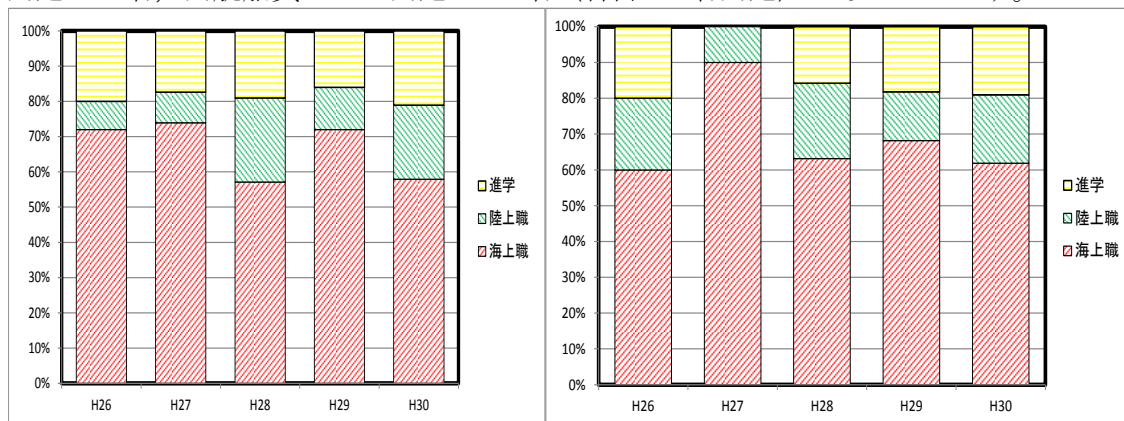


図1 過去5年間の進路状況（左：航海コース、右：機関コース）

表1 平成31年9月卒業予定学生の進路状況

航海コース（17名）	海上：11名	陸上：2名	進学：4名
機関コース（21名）	海上：13名	陸上：4名	進学：4名
商船学科（38名）	海上：63%	陸上：16%	進学：21%

2. 求人・求職の傾向

近年の求人は、外航船社ではもちろんですが内航船社においても2級海技士の筆記試験合格を入社条件としている会社も多いため、よりレベルの高い資質が求められています。

海上職・陸上職ともに、就職に際しては基礎基本の知識を有していることは当然のことながら、社会人としての責任感・協調性・社会性などのコミュニケーション能力が強く求められる傾向にあります。

海上職を目指す学生の場合、外航を志望する学生は毎年一定数おりますが、内航のような数ヶ月から数週間の短期航海の船員を希望する傾向もあります。

3. 進路指導

(1) 低学年に対して：学科長や就職担当者がホームルームの時間を利用して、就職や進学を含めた進路についての指導を行っています。不定期ではありますが、造船所見学や本校練習船の寄港地での港湾施設見学等も取組んでいます。卒業生の講演等の機会を設定して海事関連の仕事に対する理解を深める取組みも行っています。

(2) 高学年に対して：商船学科では担任と就職担当を中心に、本人の希望・適性・成績等を踏まえ、希望調査・個人面談等を行いながら進路を決定しています。平成27年度より2年生終了時の春休みに1カ月、4年生後期に5カ月、海技教育機構での練習船実習が行われています。5年生は帰校後、直ちに就職活動が開始されます。4・5月に、多くの企業に来校頂き、会社説明会を頻繁に実施し、学生の進路選択へ役立てています。

進路指導－電子制御工学科－

電子制御工学科 就職担当 吉田 哲哉

1. 進路の概況

平成 30 年度の求人状況は，求人企業数は 530 社，述べ求人数は 604 人と非常に恵まれた状況でした。今年度も学生達の努力の結果，卒業生 47 名のうち 7 名が進学し，40 名が就職します。就職先の職種としては，エンジニアとして機械，電気，情報，制御等の専門的な技術の仕事に携わります。

2. 進路状況

(1) 就職

卒業生の就職先の業種は 63% が製造業で，その職種は工場の生産ラインの設計や保守・管理などになります。また，約 28% がサービス業で，エレベータやエスカレータ，空調設備，OA 機器などのメンテナンスを行います。運輸・通信分野は約 3% です。今年度は，23% の卒業生が県内の企業に就職し，中四国地区の企業に就職する学生を含めると 28% の学生が，中四国地区で活躍します。表に卒業生の進路先を示しています。

(2) 進学

大学等への進学者の割合は 15% です。

平成 30 年度卒業生の進路先(電子制御工学科)(H31.3.1 現在)

	内定進路先	人数	内定進路先	人数
就職	CTC テクノロジー	1	マツダ E&T	1
	FEBACS	1	ミライト	2
	JFE スチール西日本製鉄所	1	ユニチカ	1
	M テック	1	リコージャパン	1
	アルメックス	1	旭化成	1
	エクセディ	1	旭シンクロテック	1
	キャノンメディカルシステムズ	2	高砂香料西日本工場	1
	サントリープロダクツ	1	中国電力	1
	スタンレー電気	1	東海旅客鉄道	1
	ジェイベック	1	東邦亜鉛契島精錬所	1
	ダイキン工業	1	日信電子サービス	1
	ダイコーテクノ	1	日清紡精機広島	1
	タマディック	1	日本オーチス・エレベータ	1
	テラテック	1	日本たばこ産業	1
	テンパール工業	1	日立ハイシステム 21	1
	ヒロタニ	1	富士電機	1
	ヒロテック	1	三菱電機コントロールソフトウェア	1
	フジテック	1	三菱電機ビルテクノサービス	1
	マイスターエンジニアリング	1	自衛隊	1
進学	豊橋技術科学大学	2	長岡技術科学大学	2
	福山大学	1	広島商船高等専門学校専攻科	2

進路指導—流通情報工学科—

流通情報工学科 進路指導担当 岩切 裕哉

1. 進路指導（学科の取り組み）

5 年学級担任が進路指導を担当し、学科全体で連携を取りながら指導にあたっています。就業意識を高める試みとして、1) 低学年時からの就職講義の導入、2) 4 年生全員のインターンシップ参加、3) OB・OG による講演会、4) 職業適性試験・基礎能力試験の実施などの多岐に渡る就職支援プログラムを実施しています。また、公務員志望者の学生を応援し、受験を突破する実力をつけるため、公務員講座を開催しています。

2. 進路の概況

平成 30 年度の卒業生は、41 名（男子 25 名、女子 16 名）です。この内、就職希望者は 31 名、進学希望者は 10 名となっています。就職先企業の業種の内訳については、物流業が 16%、情報通信業が 42%、公務員が 3%、製造業、サービス業、金融などが続きます。今年度は、関東地方が 42%、関西地方が 16%、そして、39%の卒業生が広島県を含む中国地方の企業に就職しています。関東地方に行く卒業生は情報通信業が多い傾向にはありますが、最初の数年の研修後には広島を中心として中国地方に配属されるケースも多いです。表 1 に卒業生の進路一覧を示しています。

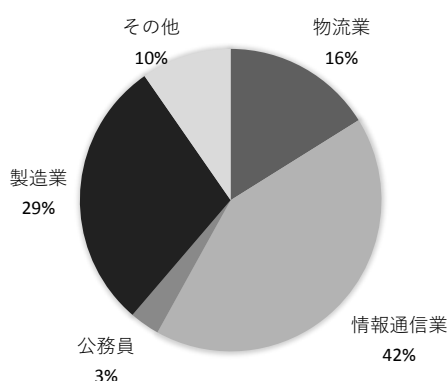


図1 業種別就職先

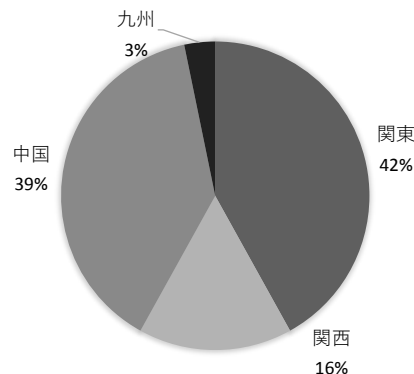


図2 地域別就職先

表 1 進路一覧

就職	情報	NTT 東日本グループ会社, NTT コムエンジニアリング株式会社, キヤノンシステムアンドサポート株式会社, 株式会社富士通エフサス, 株式会社富士通九州システムズ, 株式会社富士通マーケティング, 日通情報システム株式会社, リコージャパン株式会社, 株式会社アルメックス, 株式会社USEN, アイフォーコム株式会社, 株式会社コトブキソリューション, 株式会社中国新聞システム開発
	物流	ケイヒン株式会社, 山九株式会社, シモハナ物流株式会社, 西部運輸株式会社, 尾道諸品倉庫株式会社
	公務員	海上保安学校
	その他	パナソニック株式会社 (グローバル調達社), 広島市信用組合, ダイキン MR エンジニアリング株式会社, 株式会社ディスコ, 日清紡精機広島株式会社, 大和製罐株式会社, 三井金属鉱業株式会社, 株式会社レニアス, 大崎工業株式会社, 技研電子株式会社
進学		九州大学, 豊橋技術科学大学, 広島商船高等専門学校専攻科, 代々木アニメーション学院広島校